

Contents ▶

1 明星大学・桜美林大学合同ゼミの開催 2 ビジネスマネジメント学群との共催によるFD研修会実施報告 3 活動日誌

1 明星大学・桜美林大学合同ゼミの開催

大学教育開発センター IR部門研究員
人文学系/リベラルアーツ学群 准教授 大中 真

2016年10月22日(土)、明星大学の勝又ゼミと桜美林大学の大中ゼミとの合同ゼミ発表会が行われた。今回の行事は、両大学間の交流の一環として企画され、明星大学地域交流センターと、桜美林大学大学教育開発センターの両者が後援となり、実行された点に特色がある。明星大学人文学部の勝又基教授のゼミは江戸文学および文化が専門であり、桜美林大学リベラルアーツ学群の大中ゼミは歴史学および国際関係が専攻と、両ゼミに所属する学生たちの興味関心は全く異なっているが、逆に双方の学生たちにとって知的刺激を促すのではないかと当事者が考えたのが、開催動機である。

また今回の合同ゼミは、一過性のものではなく、毎年交互に開催校を交替しながら運営していくことが予定されており、来年は桜美林大学に勝又ゼミを招聘することになっている。2016年度は明星大学日野キャンパスで開催となり、まず明星大学の図書館を見学させていただき、その後に26号館の教室で合同ゼミを実施した。

大中ゼミでは、学生全体を3つのグループに分け、それぞれ発表テーマを決めて、パワーポイントを用いながら発表、続いて質疑応答が行われた。次に勝又ゼミでは、代表学生3名が、それぞれ個人での発表と質疑応答という流れであった。結果として、お互いの学生からは止めどなく質問が出され、時間が足りないほどであり、極めて活発な合同ゼミ大会になった。最後に両教員による総括がなされ、初めての第一回合同ゼミは終了した。その後、場所を変えて両ゼミの懇親会が開かれ、そこでもお互いの学生たちが大学の垣根を超えて交流を繰り広げた。

詳細については、大学教育開発センターが発行する今年度の『年報』でも紹介する予定であるが、明星大学からは地域交流センター長の名取淳氏が、桜美林大学からは大学教育開発センター長の鈴木克夫教授(大学院大学アドミニストレーション研究科)、同じくIR部門長の藤田晃教授(BM学群)、同じくセンター研究員の有賀清一専任講師(BM学群)、それに森厚教授(LA学群)の4名の教員が出席するなど、ゼミ指導教員と学生以外にも多くの参加をいただいたことに、この場を借りて御礼申し上げたい。今回の企画は成功したとの手応えを主催者は感じており、さらに来年度以降の発展に向けて、準備を進めてゆきたい。



2 ビジネスマネジメント学群との共催によるFD研修会実施報告

大学教育開発センター FD/SD部門研究員
総合科学系/ビジネスマネジメント学群 講師 有賀 清一

2016年11月9日(水)、ビジネスマネジメント学群、大学教育開発センター共催のFD研修会を実施しました。講演者として、帝京大学高等教育開発センター教育方法研究支援室室長の宮原俊之准教授にお越しいただき、コメンテーターとして本学LA学群哲学専攻プログラム田中一孝講師にご参加いただきました。

研修会のテーマは、「実質的アクティブ・ラーニングの方法論」とし、宮原先生には「アクティブ・ラーニングの正体」というタイトルで60分間のご講演をいただき、田中先生はそれに応じるかたちで桜美林大学でのアクティブ・ラーニングの先進的な実施例をご紹介いただきました。

この研修会の内容は、大学教育開発センターの本年度の年報に詳しく掲載をいたします。宮原先生には、今回の研修会で「そもそもアクティブ・ラーニングってなに?」「アクティブ・ラーニングって新しいことなの?」「アクティブ・ラーニングって必要なの?」「アクティブ・ラーニングには何が重要で必要なの?」という順番でご講演をいただきました。教育の本質とつなげるかたちで、アクティブ・ラーニングをご説明いただいたものと、思っています。

「アクティブ・ラーニング」を実践したいと思うことがあるかもしれませんが、しかし、必ずしもそれが、自分自身の教育の質を高める上でベストな方法ではないかもしれないと、宮原先生は指摘しています。「今の教育がダメだからですか?」「今の教育の問題点が明確ですか?」「今の教育の何に困っていますか?」このように、「教育の目標（目的）が達成できているのかいないのか、そこの評価が最初にやるべきこと」。ここから、教育の本質について、そこから自ずから明確になるアクティブ・ラーニングの必要性について、ご講演いただきました。

講演のなかで、Benjamin Franklinの言葉として紹介されていた、“Tell me and I forget. Teach me and I remember. Involve me and I learn.”この言葉が、印象に残りました。すべての講義ですぐにアクティブ・ラーニングを採用することはできませんし、前述のとおり目的を明確にした後に採用すべき手法であるということが理解できる講習会であったと思います。

宮原先生のご講演後、田中先生に桜美林での現状の先端的取り組みをご紹介いただきました。学生の性格に多様性があるなかで、アクティブ・ラーニングによって、どのようにすべての学生を参加させるかについて、実例を基にご発表いただきました。本学ではDiploma Policyとして、「学而事人」を掲げています。田中先生のご意見では、これを実現するためには知識の伝授だけではなく、学生のパーソナリティを育てる必要があるとのことでした。このとき、この教育目標を達成するためには、アクティブ・ラーニングによって、「参加する」意識を育てなければ、いけないという指摘がありました。

今回は90分間の研修会であり、途中かなり急いだご講演時間になってしまいましたが、宮原先生、田中先生には非常に充実した内容でお話しいただきました。今回、大学教育開発センターとBM学群の共催であり、宮原先生をBM学群にご紹介する形での研修会が実現しました。他の学群においても、それぞれの学群のご要望にあわせて、FD研修会の企画を行っていくことができれば、桜美林大学の教育の質を高めていくことができると考えております。

3 活動日誌

- ・10月14日（金）ペンシルベニア州立大学ジェラルド・ルテンドル教授との懇談会開催（eラーニング推進委員会との共催、研究員3名）
- ・10月22日（土）明星大学・桜美林大学合同ゼミ開催（研究員4名）
- ・11月9日（水）ビジネスマネジメント学群FD研修会開催（研究員9名）
- ・12月13日（火）地域科学研究会高等教育情報センター主催セミナー参加（研究員1名）

＜第17回 学内シンポジウム＞のご案内

志願者の安定的確保のために

日時：2017年2月22日（水）16：00～18：00

場所：桜美林大学 町田キャンパス 理化学館S101

プログラム：

「入試改革についての展望」

講師：村山和生（株）ベネッセi-キャリア 教育事業本部 営業企画部 シニアコンサルタント）

「志願者の安定的確保のために—9年間の『Fact Book』の分析—」

講師：藤田 晃（桜美林大学 経済・経営学系／ビジネスマネジメント学群 教授）

主催：大学教育開発センター

編集発行：桜美林大学 大学教育開発センター

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 其中館1階 101

E-mail：fdcenter@obirin.ac.jp Web：<http://www2.obirin.ac.jp/fdcenter/>